

広島や香港で学んだこと・伝えたいこと 青海中学校

原爆ドームや資料館などを見学していく中で、多くの外国人観光客がカメラを持ってじっくりと展示品を見る姿がありました。国が違って、戦争を知ろうとしている姿を見てとてもうれしく感じました。平和を思うことに人種や国境は関係なく、私たちが目指すものは同じだということを忘れないようにしたいです。戦争が終わり73年。被爆者は年々減少しています。だから、私たちが伝えていかなければなりません。まず、戦争のことを知る必要があります。正しい情報を詳しく知り、それを次の世代へつなげていくことが、この被爆国に生まれた私たちのすべきことだと私は思います。

原爆投下後の写真や被爆者の方のお話で原爆の恐ろしさを感じました。一瞬にして多くの罪の無い人々を殺してしまう恐ろしい兵器だということ、放射線で今もお苦しんでいる人がいること。こんな恐ろしい兵器が今、世界各国の手中に入っていると思うと、早く原爆の根絶を実現させなければならないと強く思います。そして今、核兵器根絶にむけた条約が制定されたことを学んだときは、たくさんの国が核兵器の根絶を目指し、平和な未来をつくろうとしていることに感動しました。私は、広島派遣で学んだこと感じたことを、いろいろな人に伝え、平和への架け橋となっていきたいです。



広島被爆
体験講話

Lions Nature
Education
Centre

香港の方と話す時には英語を使わなければなりません。私にとっては、嬉しいことでした。しかし、想像していた以上に難しいことでもありました。香港の方がフレンドリーに接してくれたので自分も話してみましたが、うまく伝わらなかったり何と言えよいか分からなかったりすることが多かったです。しかし、簡単な英語でも相手に伝わったときは本当に嬉しかったです。この交流では「伝える」ことの大切さと難しさを学びました。様々な経験をし、さらにもっと自分の英語を向上させ外国に行き学びたいという目標もできました。

香港の方たちとの交流では、優しい方たちばかりで楽しく交流を進めることはできましたが、自分の伝えたいこと、話したいことを英語に訳すことができず、積極的に会話を進めることはできませんでした。だから、今以上に英語の学習をしていかなければならないと実感しました。香港のジオパーク学習では、特に角柱状節理が印象に残っています。実際目で見ると、大きく迫力があり、長い年月をかけてできた歴史が感じられました。ジオパークもそうですが、特に日本と香港の文化の違いがたくさん感じられました。この経験を大切にして、この先の学習も頑張っていけます。

香港の学生さんは、ジェスチャーを使ったり、単語だけ繰り返したり、積極的に話しかけてくれて、英語は分からなくてもとにかく伝えようとするのが大切なのだと学びました。ハイアイランド貯水池では、写真で見たときの何倍もの迫力に、とても感動させられました。私たちが香港ジオパークを訪れて、感動をおぼえたのと同じように、外国人にとって、糸魚川ジオパークは驚きと感動で溢れているのです。また、そんな糸魚川の自然をこれからも大切に守っていきたいと思いました。糸魚川ジオパークが身近にあることに感謝し、たくさんの人に糸魚川ジオパークの良さを伝えていきたいです。

